平成２８年度　研究のまとめ【様式１】

１　チーム名（研究対象領域・教科） 中学部　自立活動	
２　メンバー	大塚　関本　庄司　柳沼　中村　圓谷　佐藤(玲)　管野
３　チームのテーマ 意欲的に学習に取り組むために　～支援や教材の工夫～	
４　対象児童生徒に願う主体的な姿 手元の課題をよく見て、意欲的に集中して学習に取り組むことができる生徒	

５　研究仮説

見る力が低い生徒にとって、興味関心に基づいた教材を提示したり、学習環境を整えたりすることで手元に集中し、教師が用意した学習課題に進んで取り組むことができるのではないか。

６　研究実践の内容

単元・題材名	自立活動「べんきょうしよう」（課題学習）
本題材の 生徒の実態	・手元を見ることに課題があり、まったく関係のないほうを見て手触りやとりあえず手をのばすなど、なんとなくやっているようなところがある。 ・周囲の状況が気になり、集中できないことがある。
本題材の 生徒のねらい	・手元を良く見て活動することができる。 ・やることがわかり、集中して課題に取り組むことができる。

（１）対象生徒の学習の様子について

	手元を見ることについて	課題への取り組みの様子
学習内容	生徒の様子	生徒の様子
１．せんたくばさみ （指先でつかむ） ２．２片パズル （見る、はめる） ３．プットイン （指先でつかんでいれる） ４．物のマッチング （果物模型を同じところにいれる）	・指先でせんたくばさみを開いて、開いたところに紙をいれてはさんでいる。指先の力が弱く開くのがやっと。 ・教師が提示したパズルのピースをあまり見ずに、なんとなく手をのばしてあったピースをとって型にはめる。 ・ビーズを箱から箱に移動する際に、箱は見ず、ビーズをとばしてしまう。指先の力のコントロールが難しい。 ・同じの意味を理解しておらず、物も見ていないため、選択肢のすべての模型を１カ所にまとめていれていた。	・同じ教室で別な活動をしている生徒の様子が気になり、集中できないことがあった。 ・教師の言葉掛けを受けて最後まで取り組むことはできるが、飽きてくると自分で「おわり」「やらない」と言ったりすることがある。 ・見てやることがわかるものについては自分から取り組むことができる。数が多かったり、やり方がわからなかったりすると、とりあえずやるが、本人も集中がきれてしまう。

（２）改善策

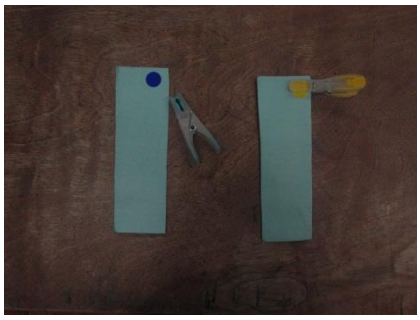
・せんたくばさみをはさむ場所に目印をつけ、本人が見ることを意識できるようにする。
・パズルを型にはめる時に、やり方を毎回同じにして、分かって取り組めるようにする。
・コインを使い穴が小さな貯金箱にいれることで、見ることを意識できるようにする。
・注目を促せるように、本人の好きなお店や車のマークを使って、注目を促してみる。

・パーテーションを使う
・いくつやればいいのかがわかり、終わりが分かるように目に見える形で提示して安心して取り組めるようにする。
・やることがわかるように、興味のあるものを生かした教材を準備し、わかるように提示する。

（３）検証授業の結果の考察

	手元を見ることについて	課題への取り組みの様子
学習内容	生徒の様子	生徒の様子
１．せんたくばさみ （指先でつかむ、紙にはさむ） ２．２片パズル （見る、はめる） ３．プットイン （指先でつかむ、穴にいれる） ４．ロゴマッチング （お店や車のマークのカードを見本と合わせる）	・はさむ紙の目印に注目するよう言葉掛けすると、目印を意識してはさもうとするようになった。 ・同じやり方で繰り返し行うことで、きちんと見て正しいピースを選んで型にはめるということができてきた。 ・貯金箱にしたことで見ないといれる場所がわからないため、自然と穴を見ていれるようになってきた。 ・興味のあるお店や車のマークを使うことで意欲をもって取り組めるようになり、マークに注目してマッチングできるようになってきている。	・パーテーションを使うことで周囲の様子が気にならなくなり、一定時間集中して取り組めるようになった。 ・学習のはじめにいくつやるかを本人と話をして決めて、ボードに数字カードと教材を貼ることで見通しをもって取り組めるようになった。 ・興味のあるものを生かした教材を準備したことで、「勉強やりたい」と自分から言うようになり、自分から主体的に取り組めるようになった。また、自分でできたと感じた時には拍手をして喜びを表現していた。

１．せんたくばさみ

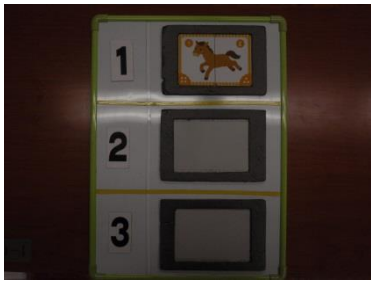


２．２片パズル

３．プットイン

４．ロゴマッチング

※見通しをもつためのボード



７　成果と課題

当初は、学習途中に意識が他の事柄に移ることもあったが、パーテーションにより視界を制限して環境を整えたり、より興味関心が高いお店や車のロゴマークを使用したりすることで、学習開始時刻前から「勉強やりたい。」と教師を誘ったり、途中で「おわり。」「やらない。」などと言わなくなったりして学習意欲が高まった。学習を繰り返し行うことで、見るだけでなくマッチングの正解率も上がってきた。また、プットイン教材を直径８㎜程度のビーズから、直径 1.5 ㎝程度のコインに変えたことに伴い、穴の形状が円形から長方形に変わったことも手元をよく見るきっかけになり、さらに手首の硬さを改善することにもつながっている。

見通しをもって積極的に学習に取り組むようになったが、教材によっては飽きてきた姿が見られることもあった。今後は、興味関心を大切に、実生活につながっていくように、さらに自立活動の目標に向けステップアップできるように生徒の様子を良く見極めて教材の選定をしていきたい。